

おとふけ



音更町立駒場小学校
6年 伊藤あかり 柴田翔輝
宮本晃陽 森本千愛
2022年11月16日発行

音更

栄養たっぷり、大袖振大豆

私たちは、ふるさとの音更について調べました。大袖振大豆は、地域の方からいただいた。また、なたね油もいただきました。また、なたね油もいただいた。また、なたね油もいただいた。また、なたね油もいただいた。

私は、音更町で昔から生産されている大袖振大豆を調べました。大袖振大豆は糖分が多いので甘く、「イソフラボン」が多くつくまれているので、健康面にも期待できます。「イソフラボン」とは、大豆一粒にわずかの、2パーセントほどの、3パーセントほどしかない貴重な成分です。
また、大豆は健康な体をづくったり、歯や骨をいよづぶにする働きやお腹の調



子を整えてくれます。さらに大豆を調べると、おかし材料に使われたり、コーヒも作られています。コーヒは道の駅にも売っています。また、豆は道産子も安心なので、妊婦さんも安心して飲めるそうです。
私は、大袖振大豆について調べて、大豆には栄養がたくさんあることを学びました。大豆は、たんぱく質も豊富で、私たちが健康な生活を送るために大切な食材です。



私達は、地域のよから大袖振大豆もいただき、学校の教材園で育てました。5月に豆を植えて、みんな協力して水やりなどを行いました。そして、みんな大豆を収穫しました。大豆をよく見てみると、かさは茶色だけど、豆は少し緑色。ほい、かんじでした。今度、豆を食べてみるので、血をみひす。

僕は、音更の有名な作物を調べました。「雑穀類」では、スイートコーン、「いも類」では、山芋、「米」では、陸稲、「野菜」では、秋にんじんがとて有名で、生産量もトップクラスです。そこで、僕は、一体、収穫量や作付面積、出荷量はいくらだろうかと気に調べてみました。

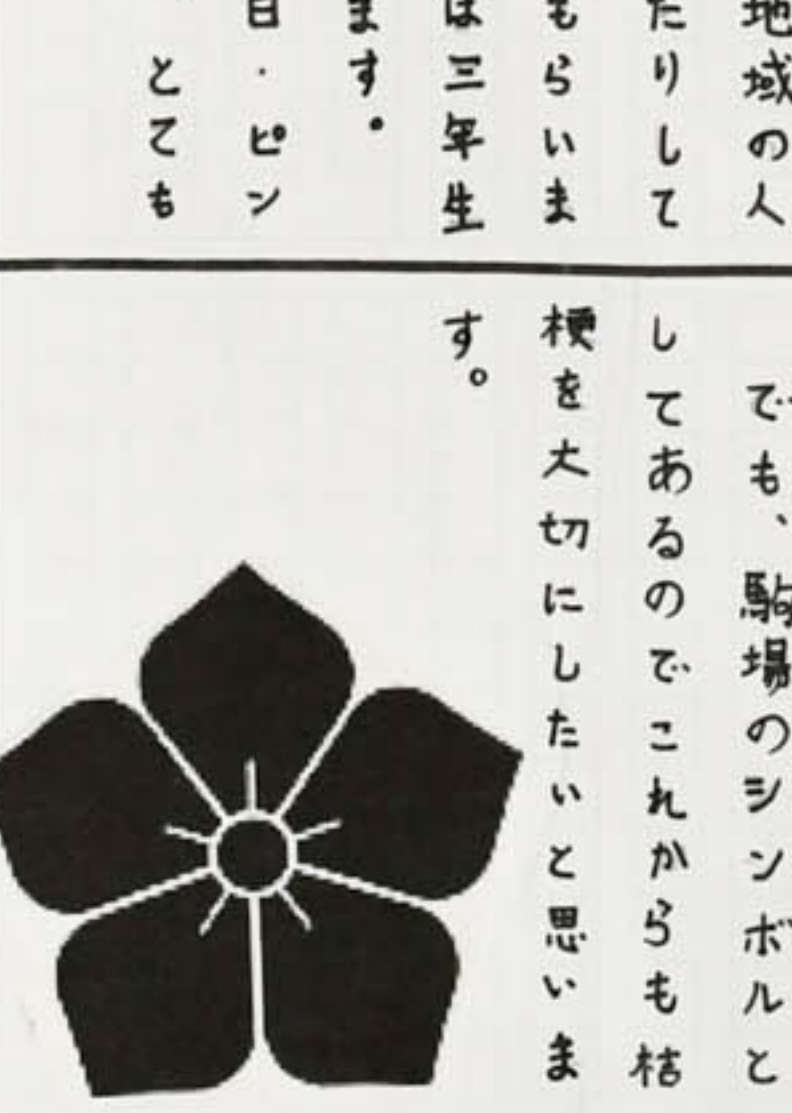
3040t。陸稲収穫量2500t、作付面積6910ha、10aあたり収穫量326kg。とわかりました。秋にんじん収穫量13800t、作付面積559ha、出荷量12800tでした。
僕の家は農家で、大袖振大豆などの野菜を育てています。音が、音更で様々な野菜を作っていることがわかりました。

音更の特産物!

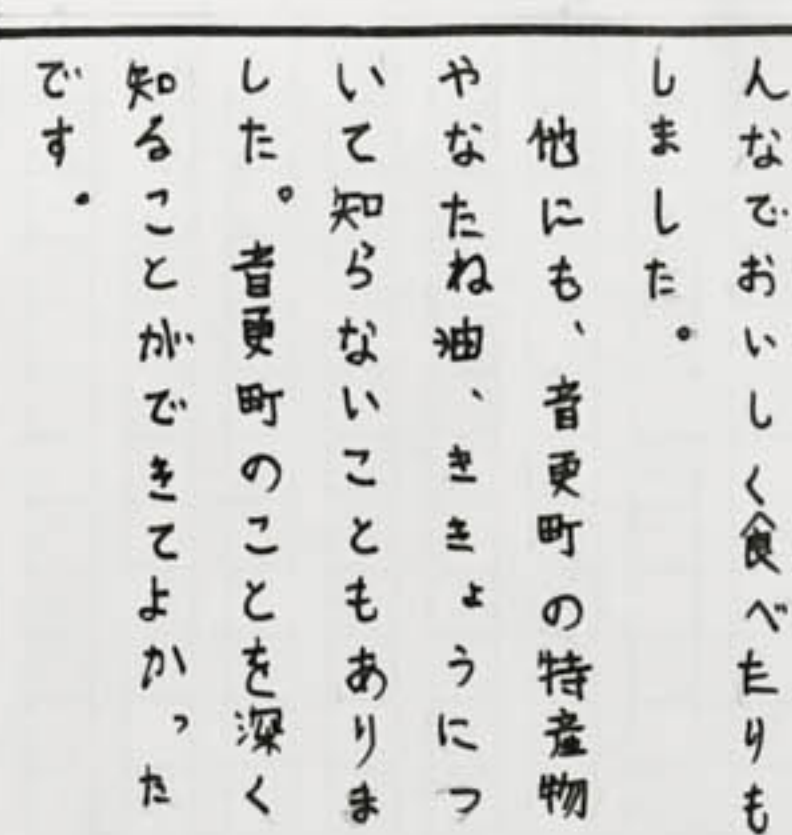


私は、駒場のシンボル、桔梗について調べました。今、桔梗は駒場にあるのが気になったので、校長先生に聞きにいきました。現在、野生の桔梗は、絶滅危惧種になっています。でも、駒場では、地域の人たちが桔梗を植えたりしていることを教えてもらいました。また、今年も3年生も桔梗を育てています。桔梗には、紫、白、ピンクなどの色があり、とてもきれいな花です。

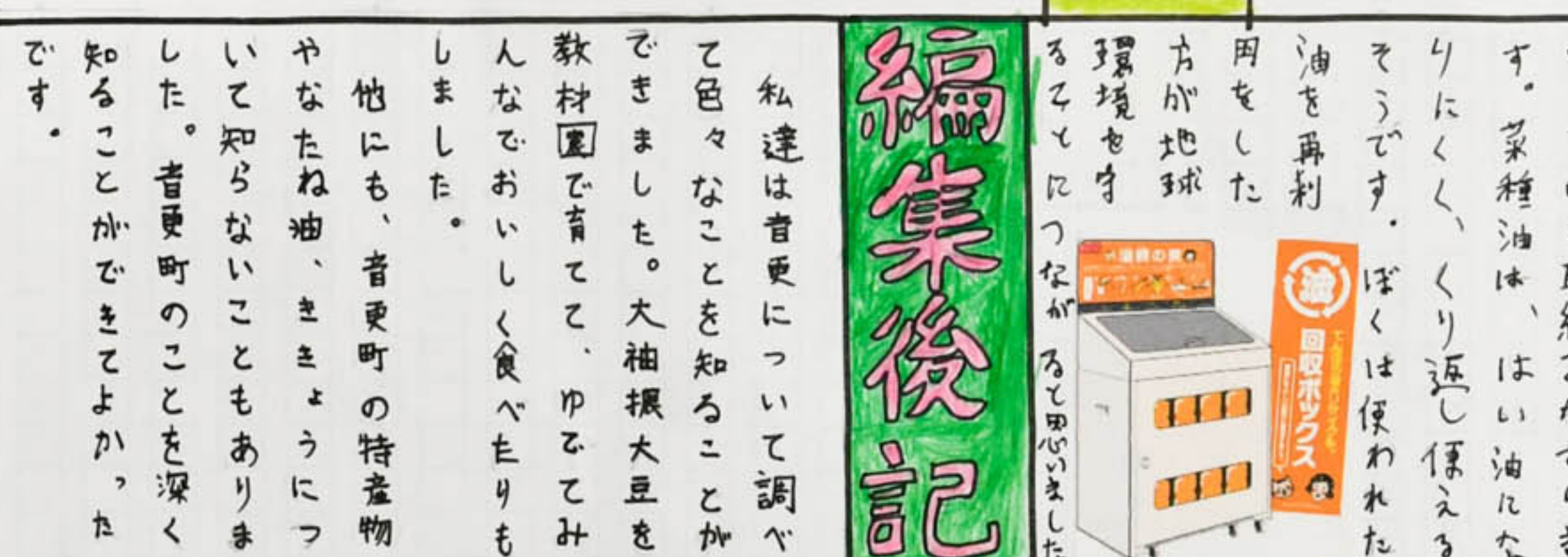
昔は、桔梗の家紋が使われており、明智光秀や坂本龍馬、加藤清正などの有名な武将もいます。調べてみると、桔梗の家紋は、あまりよくないという意味もあるとわかりました。でも、駒場のシンボルとしてあるのでこれからも桔梗を大切にしたいと思います。



私達は音更について調べて色々なことを知ることができました。大袖振大豆を教材園で育てて、ゆでてみんなでおいしく食べたりもしました。他にも、音更町の特産物やなたね油、ききょうについて知らないこともありました。音更町のことを深く知ることができてよかったです。



なたね油
リサイクル
ほくは、音更町で広く栽培されているなたね油が使用されたおとうなるか調べました。菜種は、原産はヨーロッパ。日本で栽培される菜種の多くはセイヨウアブラナです。家庭で使われ油をBDFに再生させ地球環境を守っている取り組みがあります。菜種油は、はいい油にすることができます。ほくは使われた油を再利用するために、環境を守ることが大切です。



編集後記